

第1回 オカヤ駅から未来プロジェクト会議 議事録

【事務局】

それでは定刻となりますので、ただいまから第1回オカヤ駅から未来プロジェクトを開催いたします。早出一真市長からご挨拶を申し上げます。

【岡谷市長】

本日は、大変お忙しいところ、第1回の岡谷駅から未来プロジェクトにご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様には、本市の施策推進に対しまして、特段の力添えを賜っておりますことに心より感謝を申し上げます。

ただいま、委嘱状の交付をさせていただきました。皆様には、快く委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

任期は2年間となっておりますが、どうぞ、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

さて、岡谷市では、岡谷駅周辺から市役所庁舎までの都市機能誘導区域に関連するエリアを含めた岡谷駅周辺まちの将来ビジョンを策定することにより、10年、20年先の視点でまちの将来を明確にし、その実現に向けて公民連携でまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

この将来ビジョンは、住民参加のワークショップや、市民、企業、団体へのアンケート調査等を踏まえ、本プロジェクトにおいて検討をいただく中で策定をしてまいりたいと考えております。

このプロジェクトは、岡谷市の未来を決めていくというものでございますので、本当に皆さんにはそれぞれの立場で卒直な意見、皆さんの豊富な経験に基づく意見をいただきたいと思ひます。

結びになりますが、岡谷市としまして、今後のまちづくりの方向性と指針となるビジョンとするため、委員の皆様には、特段の力添えを賜りますことをお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

どうぞ2年間よろしくお願いいたします。

【会長】

それでは、議事進行を私のほうで進めさせていただきます。何卒よろしくお願いいたします。事務局の方からお聞きしておりますのは、予定で3時半までなのですが、最初に事務局の方から議事につきましてご説明をいただきたいと思ひます。本日は初回なので、皆さん一人ひとりに岡谷の想いだとか、色々な事を抱えられている方も含めてお話いただきたいと思

っておりますので、まずは事務局からの説明の後、フリートークを設けたいと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

それでは、議題の4の(1)、岡谷駅からの未来プロジェクトの目的と役割について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

岡谷駅から未来プロジェクトの設置目的と役割についてであります。こちらのプロジェクトは、民間の立場から、市民の意見等を踏まえまして、まちの将来ビジョンを作成することを目的とするものでございます。

岡谷駅周辺まちの将来ビジョンにつきましては、およそ10年から20年、中長期的な視点で、まちの将来図を描き、官民連携でまちづくりを進めるための指針とするために、策定をするものでございます。

こちらの将来ビジョンを、今年度末までの公表という形で目標を立てておりますので、今年度皆さんには、おおよそ4回程度の会議の開催を予定しておりますけれども、ご議論いただきまして、3月にはビジョンの公表というところに繋げてまいりたいと考えています。

また、このビジョンの具体案という部分で、プレイスビジョンという形で合わせて検討をしていきたいと考えています。

こちらの2つの計画を、皆さんの立場でご議論をいただきまして、策定という流れに繋げてまいりたいと思っております。

【会長】

立地適正化計画における都市機能誘導区域についてですが、いわゆる、コンパクトなまちづくりを進めている中で、例えば市役所だとか病院だとか、駅に近いなど、ある程度のところに集約をして、その周辺に住んでもらう居住誘導区域を定め、その中である程度拠点を作る。その拠点の区域が都市機能誘導区域であります。

岡谷市では、学校単位で拠点をつくられていたかと思いますが、今回の岡谷駅周辺がまさに一番の大事な核の中心の誘導区域だということ。そこに対して、まちづくりの目標などを定めていくというような内容だとお聞きしております。

今回は、資料を見ていただきました通り、この委員会だけで決めるわけではなく、住民の皆さんのご意見をいただくことが一番重要なので、地域の皆さんと色々話す場を作って、この計画づくりに活かしていくということになります。市民の皆さんの声をしっかり捉えて、指針を作っていくということになりますので、是非ご理解いただきたいと思います。

中身で分からないところとか何かございましたら、後の方で、ご質問いただく時間を取りたいと思いますので、それでは、次の議題の(2)から(4)をまずご説明いただいた後、総合的にまたご議論いただきたいと思います。

【事務局】

(2) 岡谷市の現状と課題について

資料 4 ページから岡谷市の現状と課題を分析した詳細が記載されております。①から⑮までの内容に沿って分析をしているという形になっており、例えば、7 ページ、公共的立地という部分につきましては、岡谷市が公共的にどういった立地にいるのかというところについて分析をしたものでございます。

岡谷市は長野県の中心地に位置しておりまして、非常に副都心的な都市であると。また、様々な幹線道路、幹線網がしっかり整備されておりまして、そういったところでアクセス性が非常に良い立地であります。さらに、鉄道では、東京から 2 時間半、名古屋から 2 時間 10 分と、大都市圏からのアクセスも良いということで、こちらにつきましては、岡谷市にとっては「強み」という形で分析をしているものであります。

また、9 ページにつきましては、人口について分析をしています。人口は減少傾向にあり、近隣市町村と比べて人口減少率がやや進んでいる。また、少子高齢化も非常に進展している。これらのことから、人口は岡谷市にとって「弱み」として評価しています。

次に、18 ページの商工業に関する項目では、岡谷市の事業所数、年間販売額、共に減少傾向にあります。レイクウォーク岡谷が平成 28 年にオープンして以降、商業人口、吸引人口、地元滞在率は増加しており、集客力の高い施設となっています。そのため、商工業に関しては「強み」と「弱み」の両方があると評価しています。他の評価については後ほど、資料をご覧ください。

資料 24 ページから、(3) の岡谷駅周辺街づくりの方針についてであります。25 ページには岡谷市の強みと弱みが記載されています。

こちらは(2)で説明した本市の「強み」「弱み」などの分析結果が集約されているものです。

「強み」としては、駅周辺にまとまった市有地（ララオカヤ敷地、テクノプラザ周辺敷地など）を有していること、首都圏、中京圏からのアクセス性の良さ、交通の結節点であること、諏訪湖、岡谷の歴史、文化など様々な観光コンテンツがあることなどがあります。

「弱み」としては、近隣市町村に比べ人口、駅の利用者が大きく減少していること（岡谷駅の利用率は必ずしも悪いわけではないが、良い時と比べると落ち込んでいる）、公共施設の約 70～80%が建設から 40 年以上経過しており老朽化が進行していること、公共施設が市内各所に点在し連携しにくいこと、駅前に市民や観光客が利用できるオープンな空間が不足していること、送迎者による駅前交通広場の混雑が課題であることなどがあります。

「機会」としては、7 月 27 日に予定されている諏訪湖スマートインターチェンジの開通により岡谷駅南口や諏訪湖畔エリアのポテンシャルが高まる可能性があること、諏訪湖サイクリングロードの開通、岡谷市内の高校 3 校の存在による若い世代のまちへの滞在などを評価しています。

「脅威」としては、社会情勢の変化による資材価格の高騰がまちづくりに甚大な影響を与える可能性、諏訪湖スマートインターチェンジ開通による諏訪市のポテンシャル向上、他市

町村（塩尻市、諏訪市など）による官民連携のまちづくり推進などを挙げています。

以上の分析を踏まえ、資料 29 ページのまちづくりの方針では、岡谷駅エリア、市役所エリア、諏訪湖畔エリアの 3 極について総体的に価値を高めていく方針を定めました。

資料 26 ページでは各エリアのポテンシャルについて評価しています。岡谷駅エリアは、低利用の市有地を有効活用した都市機能誘導や賑わい創出や、テクノプラザの立地によるものづくりの拠点としてのポテンシャルがあります。

市役所エリアは多様な都市機能が集積しており、魅力を増大させるポテンシャルがあり、諏訪湖畔エリアは福祉施設、観光、スポーツ施設の立地、ランニング、散歩、サイクリングなど利用者増加の可能性がありま

す。以上の評価をまとめ、目指す街の姿として、潜在価値を生かし、駅から全体活動の向上及び 3 つのエリアの連携を図ることで、全体価値の向上に繋げることを目標とし、「岡谷駅エリアから始まる みんなで織りなす魅力の連鎖」として、目指すまちの姿を定めております。

資料 28 ページにつきましては、真ん中から右端の部分にかけて、岡谷駅から、目指すまちの姿を実現するために、まちづくりの基本方針 3 つを定め、それぞれの基本方針を達成するために、4 つの目標を設定しています。

目標 1「人やものを呼び込む駅周辺の核づくり」目標 2「政策課題に資する環境整備」目標 3「魅力の軸づくりと連鎖」目標 4「官民連携のまちづくりの土台づくり」です。これを踏まえ、今後将来ビジョンという部分、具体的な動きなどを皆さんのご検討、ご議論頂きたいと考えています。

その詳細ですが、(4) の岡谷駅周辺町の将来ビジョン検討の進め方についてご説明いたします。資料 30 ページから、31 ページをご覧ください。

3 月末までに公表したい将来ビジョンの構成です。まちの将来ビジョンとして、基本方針 3 つと目標 4 つは既にお示ししています。

ここから先、ご議論、検討頂きたい部分は、課題、取り組みの方針、取り組みについて、市民の皆さんの意見を取り入れながらお願いしたいと考えております。

決定体制ですが、ビジョンにつきましては、官民連携、市民参加で、様々な形で市民の皆さんの意見を伺っていく体制としています。

市民参加について、1 つ目、プレイスビジョンワークショップです。実際にワークショップ活動を通して、その場所ごとにどんなことができるのかを、市民の皆さんと一緒に考えていきたいと考えております。

資料 34 ページをご覧ください。プレイスビジョンと聞き慣れない言葉ですが、プレイスビジョンとは、プレイスメイキングの方針を利用者や利用者の視点で整理した関係者間の継続的なコミュニケーションツールとなる共通指針です。その下に Power of 10+ と書かれた、絵に着目して下さい。主要な地域の中に 10 箇所程度、それぞれの主要な場所、活動拠点と言いますか、そういったものを選定し、それぞれの場所で、どういったことができるの

かを検討していく仕組みだと理解しております。

これを岡谷市に当て込みますと、今回主要な対象地として指定しているのは、岡谷駅エリアから市役所エリアに至る、大きく赤く囲ってある区域です。

これを主要な対象地として選定し、今回 5 箇所程度を予定していますが、それぞれの箇所において、特徴や考え方がありますので、そういった部分を市民の皆さんと一緒に、どういった可能性があるのか、どんなことができるのかということを、プレイスビジョンの作成という形で進めていきたいと考えております。

また、市民参加の手法として、プレイスビジョンワークショップ、それから市民アンケートを重視したいと考えております。

アンケートは 2 回程度を予定していますが、市民の課題の認識やまちづくりの要請等の意向を把握するためのアンケートと、将来ビジョンが大体固まってきたぐらいのタイミングで、市民の皆さんのご意見を頂くためのアンケートを実施したいと思っております。

詳細につきましては、現在検討中でございますが、SNS や岡谷市の公式 LINE 等につきまして 6000 人弱の登録者がいらっしゃいますので、そういったものも活用しながらアンケートを展開したいと考えております。

また、商工会議所が組織する中心市街地活性化の組織である岡谷TMOですが、ワークショップでは共催という形で、ご協力頂いておりますので、こちらとも連携しながら進めてまいります。

ワークショップの具体的な日程について、6/21 に第 1 回を予定しており、その後月 1 回、7 月、8 月、9 月と第 4 回まで実施し、最後は 1/31 に予定しています。

最後に、企業・団体アンケートでございますが、プレイスビジョンの対象地の選定、広報効果の活用に関するニーズ把握、ワークショップやまちづくりへの参加の促進ということで、現在アンケートのお願いをしております。

市民参加を得ながらビジョンを積み上げていく形ですが、その結果をこの岡谷駅周辺未来プロジェクトに反映し、皆様のご意見を頂きながら、将来ビジョンの策定に繋がりたいと考えております。

【会長】

ありがとうございました。ご説明いただきましたが、事務局に確認をもう一度させていただきますと思います。

細かい点ですけど、31 ページで未来プロジェクトの委員さんにやっていただくのは、基本方針と目標と取り組み方針をビジョンとして作ることで、それについてご意見を頂きたいってことでよろしいですか？資料左側のまちづくり方針が何となく決まっているように見えて、そこからまた基本方針って書いてあるので、まちづくり方針は踏まえるというのは分かりますけれども、それを踏まえて基本方針、目標ってそれを全て次の時に案を出してくるので、それをご意見頂きたいってことでよろしいですか？

【事務局】

31 ページの表で左側と右側の、右側基本方針目標矢印がありまして、取り組みの方針、取り組み例でございます。左側に将来ビジョンということで、岡谷駅周辺街づくりの方針、それから目標があるが、これらはリンクをしています。この右側の基本方針＝左側の岡谷駅周辺街づくりの方針っていう見方をして頂く。このプロジェクトでは取り組み方針や取り組み例を議論するといった形です。

【会長】

目標自体が漠然としていて、取り組み例をどうするかと言われてもまだ何か分かりにくいと思います。今回は初回なので、具体的なご意見を皆様から頂くのですが、事務局で構成だとか、どのような箇所の意見をもらうかというのをはっきりしないと、例えば、事業者や岡谷駅長が参加していただいている中で、例えば、駅長から何のご意見を伺うかっていうのも難しかったり、商工会議所ではこうして欲しいってご要望は頂いたりするかもしれませんが、意見をどうすり合わせていくかというところが、商工会議所では元々やってらっしゃるから、こういうことをやればいいじゃないかっていう話も出ると思います。すでに資料の中で現状がまとまっていますが、空き家が多いのはどの場所なのか全然分からない。そうした資料が欲しいとか、次回議論するのにこの場所が肝だから情報が欲しいなど含めて、ご意見も頂きたいと思います。

【委員 H】

まず、平成の大合併で 6 市町村を合併するっていう話がありましたが、結局うまくいきませんでした。私は製造業を営んでいますが、それ以外にも、JC 関係の繋がりがあったり、みんなまちづくりを考えたりする、色んな団体に加入している中で、その個性が一緒になってくるっていう、簡単ではないですけども、でもやっぱりそういうところも何か視野に入れた中で話してかないと、それぞれ諏訪市や岡谷市のジャッジが遅くなってくるっていうことをすごく思っています。

方向性を何か 1 つ持っておくべきだと思います。もちろん岡谷市のことを考えていますが、でももっと広域で考えていかないといけないことも感じます。人口減少が起こっている中で、ここに人を呼び込む場合、今回のこの目的はまずは人を増やしていくってことに焦点を当てるか。

例えば、やっぱり若い人達がこの地域に魅力を感じてここにいたいって思ってくれる地域を作っていかなければ、その時にここに帰ってきたいなって思う地域ではなかったら、流出は止められないと思います。

また、いい会社がなければ、ここで働く場所がなければ、県外に出た若い人達が戻ってこないし、自社の会社づくりと地域づくりと人づくりってみんな一体になってやっていかな

いといけないとも思います。

高校生の意見も大事です。若い人たちは今何を考え、東京や都会に行く人もいれば、地元に残って働く人もいます。この地域の魅力を簡単に言うのは難しいです。企業の魅力も同様です。若い人が魅力を感じる地域とは何かを考えなければなりません。漠然とした話になりますが、人を呼び込むことが重要です。人がいなくなれば成り立ちません。若い人が集まる地域を作る必要があります。

製造業の話になりますが、市内には中小企業が約 400 社あり、5 年後、10 年後には後継者不足で半分になると思います。そこで、ものづくり推進機構などを活用し、スタートアップができる地域を作ること考えています。諏訪東京理科大との連携も検討していますし、地域としての強みを活かし、製造業のスタートアップができる地域になれば面白いと思います。

また、諏訪湖スマートインターチェンジが開通する中で、諏訪、下諏訪の駅周辺の整備も話題になっています。岡谷駅周辺も活気があります。

目標を掲げ、街づくりを進める上で、どうしたら人が呼び込めるのかを議論する必要があります。魅力ある街とは何かという視点が重要です。

【会長】

駅長さんに伺いますが、岡谷駅には多くの高校生が利用しています。高校生の声を伺う機会はありますか？土日は映画館やレイクウォークに高校生や大学生などが集まる流動性があると感じています。

【委員 E】

夕方には高校生が諏訪市から岡谷駅に戻ってくるので流動性もあります。一点確認をしたいですが、このプロジェクトはララオカヤを解体し、後利用をどのように使うか決めるためのプロジェクトですか？

【事務局】

断言はできません。10 年、20 年先の長期的なビジョンに基づいたまちづくりを考えるものとして、このプロジェクトを位置付けています。

ララオカヤの解体は、まちづくりを進めるための手段のひとつだと考えています。ララオカヤの解体ではなく、10 年、20 年後の岡谷市のビジョンとして考えてください。

【委員 E】

私は長野市から来て岡谷は初めてです。ララオカヤの解体は重要な課題ですあり、意識して進めていく必要があります。ララオカヤ周辺は中心的なエリアです。市役所の考え、地元住民の意見、駅周辺の想いも重要です。

岡谷市は諏訪地域全体の中心であり、ものづくりが盛んです。中小企業も多いです。人口減少の中で、岡谷市を選んでもらえるようにしたいです。

【会長】

駅周辺、ラオカヤを含めてどうしたらいいか議論する必要があります。赤沼さんは、地元で 50 年間居住されています。また、岡谷 TMO は、中心市街地、駅周辺の活性化に取り組んでおられますが、いかがでしょうか。

【委員 B】

岡谷 TMO では、時代の変化の中で、取組方針を見直し、経済産業省や中小機構の補助を受けて、岡谷の活性化について体制づくりを検討しました。

昨年度「岡谷未来図」を作成しましたが、市民、商工業者、有識者、市職員、会議所などが参加し、岡谷にあったらいいもの、残すべきものを議論しました。

岡谷にこういうものがあつたらいいねっていうものを、絵にして見せましょうというような形で、こういう絵を作りました。

20 人ぐらいの方が、岡谷にこういうものがあればいいねという事で、色々なものが載っていますので、1 個 1 個説明するとすごい時間になりますけど、例えば岡谷駅前、賑やかになつたらいいねとかいう話があつたりとか、縄文土器の話があつたり、テクノプラザは歯車の絵になっているように、工業に特化しているとか、そういうようなものを羅列したものです。それを、将来的に、こういうものがまちの中のどこかにあればいいねっていうものを作らせていただきました。

これを 1 つの参考、たたき台にさせていただいて、こんな意見も市民からあつたよっていうのを入れさせていただければいいのではないかっていうのが 1 つあります。

それからもう 1 つは、商工会議所主導になって、まちづくり会社を作るといった動きも出ていますので、今年度少しでもまちを賑やかしていく取り組みをしていきたいと思えます。

これがこの将来ビジョンにどの程度反映されるのかどうか分かりませんが、将来ビジョンっていうのは、会長さんが言われたように、何を取り上げるかというのがまだよく分かってないですが、だんだん素案が出てくるなど、そういうものを見させていただいて、また意見を伺えればなと思っています。

【会長】

未来図ではラオカヤは無くなっており、広場になっているようなイメージです。高校生のみなさんとか、お出かけ、商業施設に來られると思いますけど、何か目的がないと、行く場所がないとなかなか行けませんので、広場はおそらく行く目的のあるものになると思います。「居心地がいい空間がどこにあるのか」、往来もこういう目的を持って、「ここに行

けば何かこういうことできる、楽しいことができる」という絵を描き、それをやりたいというのをなんだと思しますので、事務局の方でまた参考にしてほしいです。

【委員 D】

私は、岡谷市のまちづくりに 40 年から 50 年ぐらい前から、色んな形で関わってきました。50 年ぐらい前だと、岡谷の駅はすごく暗くて、行った時にどこ行ったらよいか分からないぐらいの駅でした。

また、中央通りは商店街がずっと繋がっていて、商用っていうのもある程度あったが、大きな商業施設がないということで、駅前に駅前再開発のビルを作り、そこに大型商業施設を誘致しました。これは、民間で商業施設を作って、大型店舗を誘致したという計画であり、その当時、色んな状況の中でどうしても規模縮小せざるを得なくて、小さなものになってしまった経過があります。いざオープンしてみたら、物足りなさっていうのが多分市民の皆さんの中に多くあったのではないかなというように思います。その後、徐々に商業そのものが衰退していますが、今は駅前に商業施設なり、そういったものを確保するものを作り、それで魅力が生まれる時代ではないような気がします。

では、どうするか。未来図を見て、例えばテクノプラザがあって、そこには新時代のものがあって、それを 1 つの拠点とすると産業の拠点っていうか、工業の拠点にしていくというのも 1 つの案なのかなと思います。

岡谷駅前と市役所を中心にするところっていう形になっていますけど、商業の中心や文化の中心というのはもうここで決まっていますので、これ以上のことはどこかで建ててみたところで、お互いに引き合うっていう状況にはないという気がしています。

ただ地元の住民から言わせると、駅前や中央町の再開発に、それらに多くの住民の方が協力をして区民が減ってしまったということがあります。これ以上住宅を潰して施設を作るっていうことは、ちょっと考えてもらいたいという気もします。

それからもう 1 つ、先ほど合併について話題が出たが、結局は合併できなくなったわけですね。できなくなった以上、今度は岡谷市として、岡谷市が単独で生きていくためにどうしたらいいかっていうことを考えなければいけないと思います。

確かに広域的に諏訪市とか下諏訪町のことも考えなければいけないですが、たぶんそれを言っていたら結局前に進めなくなってしまうので、とりあえず岡谷市を岡谷市としてこれから生き続けていくためにどういうことが必要かというのを、10 年後、20 年後に岡谷が岡谷であり続けることができるような形で検討っていうのができれば一番いいのかなっていう風に思います。

【会長】

ありがとうございます。岡谷市が岡谷市であり続けるための、その岡谷はどれが有り続けるための肝なのかってまたお聞きしたいところではありますが、次に公共交通を担ってい

ただいているタクシー業会とバス事業者さんにも来ていただいているので、岡谷の公共エリアに対して、あまりうまくいかないとか、利用者が少ないとか、様々なご意見があるかと思いますが、駅前に対してどうなのか、個別にご意見いただければと思います。

【委員 F】

岡谷駅周辺まちづくりについて伺っている中で、駅前の子供さんの送迎、タクシーの現状について懸念があります。コロナの影響でタクシーの数が減り、利用者も減少しました。将来的に待機場が整備されても、タクシー台数は増加しない状況があります。まちづくりにおいて、タクシー乗り場は最後の最後で良いと考えています。魅力あるまちづくりを優先し、その中でタクシーの運行を円滑に行うべきです。タクシー乗り場をわざわざ整備する必要はないと考えています。台数が減り不自由をかけていますが、JRの始発と終電の間の対応、不確実な仕事への人員配置の問題もあります。近隣市では夜間運行をやめています。運転手、運行管理者、配車系の人件費は負担が大きいです。岡谷市では難しいと思いますが、魅力あるまちづくりが必要です。例えばウナギのまちとしてPRしていますが、魅力が分散しています。それぞれ魅力はあるものの、まとまりに欠けます。映画館やボウリング場など魅力はありますが、まとまりに欠けています。

【会長】

岡谷市民の意見を取り入れると、アルピコバスが止まれないような広場になってしまう可能性があります。高速バスなども考慮する必要があります。バス事業者の方のご意見があればお聞かせください。

【委員 G】

現状は便数が減少しており、利用者も減っています。減益により減便せざるを得なくなるという悪循環に陥っています。住民の需要に応えられていないのが現状です。運輸業界では乗務員不足が大きな問題になっており、バス会社もタクシー会社も乗務員不足に悩んでいます。便数を増やしたいですが、乗務員不足により実行が難しい状況となっています。立派な施設を作っても、バスを供給できない可能性があります。

【会長】

市民の足としてバスが基本で、タクシーは補助的な役割です。駅を利用する方は比較的元気な方が多いです。駅周辺の整備は、誰のためのものなのか、岡谷の将来像を踏まえて検討する必要があります。

【委員 I】

基本方針がまだ見えないため、具体的な取り組みを検討するには、皆様の意見が必要です。

事前資料の 31 ページ、将来ビジョンについてです。

数字的なものと地図的なものが不足していると感じており、そこをしっかりと議論した方が良いと思います。数字というのは、例えば、賑わいを増やすといっても、日本中どこでも減っていく状態の中で増やすのは本当に難しいですし、よほどのことがないと増えないと思った方が良いでしょう。賑わいを作ろうと思ったら、どこか他方が減らないと賑わいがない。

このまちなかでレイクウォークはそれなりに人が沢山いらっしやると思います。今日の昼はイルプラザで昼食を食べましたが、それなりに人はいらっしやるけど、このままで大丈夫かなと思う面もありますし、駅前にはラオカヤがあり、そこには人もいない。このような状況の中で、駅前に賑わいを作ろうと考えるうえでは、「他のところと比較して、まちなかに昼間どれぐらいの人が居るまちを目指すのか」、「まちなか全体の中で駅前はどうか、イルプラザはどうか、レイクウォークはどうか」といった議論をした方がよいと思っています。

全体をどんどん増やしてみたいな議論じゃないと思うので、夜住んでいる人の人口は現状どれぐらいで、どれぐらいを目指すのか、昼間の働いている人、外から買い物とか遊びに来る人はどうか、そこを押さえて議論していく方がいいかなと思います。

多分色々数字示してもらっているものもあると思うので、一つひとつものを見せていただきながら議論したいなと思いました。

他の地域のまちづくりで議論する中でよく出てくるのが、お店、特に飲食店が街中にたくさんあるような街で、昼の人口と夜住んでいる人の人口の割合が 2 対 1 ぐらいで昼間の人口が多くなないと、まちなかの店が成り立たないっていう話を聞いたことがあって、そういうのを 1 つの目標にすることもあります。

地図の話に関して言うと、駅前に大きくラオカヤの土地があることと、色々施設がたくさんあることはポテンシャルではあると思いますが、全てを活かすのは難しいと思います。さっきの数とも関係しますが、どこにどのぐらいの人の密度を作っていくのかとか、人がいなくてもあんまり殺風景にならない空間の作り方っていうものなのかということを、しっかりと議論した方がよいと思っています。

もう一点だけ申し上げると、この未来図は本当に素晴らしい、見ていて楽しくなる絵です。駅からのこの市役所までの軸線が明快に示されていて分かりやすい。

ただ普通の人には歩くでしょうか。私は歩くことが好きなので歩きますが、普通の方は相当何かやらないと歩かないと思います。別に道じゃなくて細長い広場と考えた方がよいのかもしれません。それぞれの店と前でそれぞれに面白い場所があるというようなイメージです。ぜひそういう観点も含めて地図で議論がしたい。本当はここに大きい模型とかありながら議論すると面白いなとは思いますが、模型は難しいと思うので、大きな地図とか囲みながら議論できると良いなと思いました。

【会長】

将来的な数というか、数値的なものがどこにも出てこないため、それが取り組みの中心になるかもしれません。従来の通りやったら岡谷であり続けるための岡谷になり得ないかもしれないので、もう少しざっくばらんな議論もしたいと思いますので、また事務局と相談をさせていただきたいなと思います。

将来ビジョンについては、もちろん皆さんで関わっていただくので、解体するためだけの計画作りには終わりたくないというところをビジョンの内に入れ込んでいただき、市長さんに提案させてもらいます。

市長さんに「壊すのはいいけど、その後こうなった方がいいよね、こうしたらいいよね」というのを、市民の皆さんのご意見もいただきながら、最終的にはビジョンとしてまとめていきたいです。

【委員 B】

いずれにしろ、プレイスビジョンというか、ワークショップが開かれるので、TMO も関わっていくという話がありますが、そこでどういう意見が出てくるかは楽しみながら、将来ビジョンをどう作り上げていくか考えていきたいと思っています。

私的には、駅前と市役所周辺と湖畔も入ってきますよね。今は中心市街地だけの話になっている部分もあって、できれば諏訪湖畔は岡谷としたら大事な場所ですが、駅から諏訪湖へ歩いていくのにどこを歩いていくのか、あるいは自転車で駅から釜口水門までどう行くのか、アクセス的なものも含めて、ハード的な話になりますが、町の賑わい、観光という要素を踏まえれば、そういうものも取り入れてもらえるような形ができればいいなと思っています。

【会長】

ありがとうございます。駅がちゃんと整備されていれば、岡谷のいいものが色んなところにあるって人が動くきっかけになる。近代化遺産もありますが、そういうものがどう活用されていくか、現状よりもっと活用方法もあるかもしれませんし、目的の場所は岡谷にはたくさんあるので、そういうところに対してどういう連携で人を繋いでいくかも重要だと思います。

【委員 D】

ビジョンの完成度ってどのくらい求めていますか？施設をそのままの状態では置いておくのはあまり良くないですね。全体雰囲気としてもあまりいい雰囲気ではないし、駅にとっても決していい状態ではないと思います。

そうすると、まず壊しましょうっていうところに主眼を置いて、そのために何か作りましょうっていう形に持っていくのか、本当に 10 年後、20 年後を見据えたビジョンを作るのか

って非常に難しくて、ワークショップの方で本当は検討してもらって、そのワークショップの方から上がってくる部分やってくつていうと、大変だと思う。

さっきの若い人たちの意見も含めて、若い人たちだけじゃなくて、そこに住んでいる高齢者の意見とか、バリバリ働いている方の意見とか、色んな意見を聞いた分っていうのは、次にあったとしても、来年の3月には終わるのではなくて、もっと詰めて考えてくつていうこともいいのかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。我々委員は2年間委嘱されておりまして、1年では終わってないつていうところが何か、隠し玉があるかもしれないと思いますが、貴重なご意見ありがとうございます。

ララオカヤ解体は何を目指して壊すのかつていう、何も目的がないものを壊すつていうことへの疑問だと思います。もう少し深化できるようにもう一度議論しても良いのではないかとつていうご議論だったと思いますので、事務局の方で御検討いただければと思います。

【委員 E】

皆さんがおっしゃっていた資料の数字では、駅の利用も2000年頃と比べると5割、6割となっていますが、現在は、コロナ前の人数には戻っていません。ただ、駅は大切なところですので、ララオカヤは早めに無くなって、明るくなれば良いなと思います。

また、私は商業活性化の委員もやっていますが、観光協会の方や市の商業観光課の方とも、どういう風にすり合わせていくのかつていうのも大事だと思いますので、市民の声だけ集めても、人を集める策も、整合性も取らないといけないかなと思いました。

【会長】

市の中で他の庁内組織について、横展開を図るので、市の方向性はそこで共有されていくかと思っています。

【委員 F】

前回の会議で「オカヤ駅から未来プロジェクト」に名前が決まって、1番最初に見た時に主催：岡谷市建設水道部まちづくり整備つて書いてある。例えば若い人の声を聞きたいつて時に、すごく固いものだと思います。もう少し柔らかく「みんなの意見を聞かせてね」という感じで工夫する必要があると思います。

また、(今日の資料は)見る文章ではなく、読む文章だと思います。若い人たちは見る文章を好みます。言葉いっぱい書いてあるよりも、インパクトの言葉をポンと上げた方がインパクト強いと思います。

【委員 G】

元々ラオカヤは、諏訪バスが関わっていた建物ですので、アルピコグループとしても非常にラオカヤのことにしましては関心が高くて、解体と言いますか、再開発につながるような話を進めていただきたいなと思っているところです。

【委員 H】

岡谷の話をするとうる谷って歴史があるじゃないですか。蚕糸博物館にも歴史的なものがたくさんありますけど、製造業も歴史から来ていることがあります。

商工会議所でうる谷味噌に取り組まれているじゃないですか。全然違う話ですけど、群馬のこんにやくパークとかあるじゃないですか。同じように味噌パークでも作ろうって言うんですが、歴史的から始まっていること、味噌もそうですし、歴史も全部つながっている話だと思います。

そういうのを掘り起こすこともすごくいいなって思っていて、若い人や先輩の人たち、この歴史が脈々とつながっているね、若い人たちにもっとうる谷の歴史知ってもらおうとか、そういうこともすごく大事なのかなって思っています。

私が携わっているある事業をきっかけに、南箕輪と駒ヶ根と須坂と連携をさせてもらっています。歴史をきっかけに南信州をつなげてこうっていうのをやり始めていますが、そういう連携をしていくとか、こういう地域でこういうことが出来たりするのもすごくいいのかなと思っています。でも何か私も今、いろんなことをやらせてもらっている中で、やっぱりこのうる谷が、この諏訪エリアがより活性化して元気になっていけばいいなっていうのをすごく思っていて、それがうまく繋がって、ここの駅のことになってくるといいなって思ったりしています。

【会長】

ありがとうございます。うる谷駅から出発の高速バスで皆さん必ず飯田の方から飯田線を使ってうる谷っていう形になるので、さっきの南信州の駒ヶ根とかみんな繋がりががありますよね。飯田の方とお話すると、長野県広いので、長野市の事なんて飯田の人は全然感覚的じゃないです。今の連携の範囲で皆さんがおっしゃった所、まさに南との繋がりがって昔から強いですし、歴史の中でうる谷のうる谷であるべき姿はどういうものかって言ったら、うる谷の歴史がちゃんと繋がっててっていうところのストーリーもちゃんと書けるかもしれませんし、そういうところがビジョンの中にしっかり盛り込めればなって思いますので、ご意見も踏まえて、事務局の方でもご検討いただきたいと思います。

【委員 I】

やっぱり産業だなというのを、改めて、今日の皆様の発言を伺っていて思いました。歴史からっていうのもありますし、味噌もありますし、工業、製造業に限らず、商工業も含めて

やっぱりこういう中心部を考えていく上で、一緒に考えていかないといけない話なので、この庁内会議がすごく大事だなと改めて思った次第です。

ただ、地図に絵を書いているだけで、まちが良くなるはずはないので、昼間人口を増やそうと思ったら、商工業の話や、工業、製造業の話含めて考えていかないといけないので、ぜひ、どうすれば、このエリアが盛り上がっていくのかというか、続いていくのかというところを、議論させて頂ければと思いました。

さっき数字の話をしましたが、市としては4万人という人口を維持していくのがおそらく大事な目標としてあるのかなと思います。議論すべきは、そこに向けて「まちなかがどうあるべきか」というところではないでしょうか。もちろん他にもありますけど、考えるべきはそこだろうなと思う中で、若い世代にとってどういう場所、居場所とか体験があればいいのかっていうところを、現状あるいは今無いもので、みんなでいろいろ想像膨らますみたいなのも含めて、本当にどんどん意見を貰いながら、しっかり話し合ったり勉強し合ったりしながらですね、イメージを作り上げていければいいなと思いました。

この場はなかなかそういう若者が入っている感じではないと思うからこそ、ワークショップはとても大事です。残り時間、最後の呼びかけはぜひ柔らかい文章でお声かけして、いろんな方を呼んでいただければと思いますし、全5回多分最初から全部同じ人が出ないといけないってものでもないのかなと思うので、長い時間の中でいろんな人に入っていたくれるような進め方をしていただければいいかなと思いました。

ラオカヤを解体するという方針ももちろんあるとは思いますが、ただ壊されて何も無い状態って逆に今よりもまずいじゃないかって気もしています。壊した後どうなっているのかというところはしっかり議論しないといけないと思うので、ぜひそこに向けて、駅前のあり方、暫定的な広場としてのあり方も含めて、まずは1年、できる所まで議論させて頂ければいいかなと思っています。

【会長】

ありがとうございました。次回開催は9月頃だという事ですけれど、プレイスビジョンワークショップがどんな形で動くかっていうところが皆さん期待もしつつ、市民の声がどれだけ拾えるのかというところもあります。事務局の方に依頼したいのは、スケジュール感を出しつつ、様子で変えていかなきゃいけない事もあるので、この辺は臨機応変にやっていくことをお願いしたいです。また、新しいことをやるので、いつも通りの総合計画のような計画を作るのではなく、市民の皆さんが理解できないようなもの作っても仕方ないので、皆さん、関心を持って頂けるようなものを第2回以降、事務局の案としてご提案頂ければと思います。